国内からアジアへ アジアから世界へ 「国際観光都市」目指す釜山

「伝統、歴史」に新たな観光スポットを融合させ、アジアを中心に誘客図る

韓国の釜山広域市と釜山観光公社は、10月30日から11月1日にかけて第2回釜山国際トラベルマートを実施した。同会には日本をはじめ台湾やフィリピン、シンガポールなどアジア各国の旅行業関係者がバイヤーとして参加し、現地のセラーと交渉を行った。

韓国南東の沿海部にある釜山は、日本にとって最も近いアジアの観光都市の一つ。4日にはJR九州高速船の新型船「クイーンビートル」が福岡からの運航を開始するなど、日本との交流が従来以上に活発化しようとしている。10月には世界的なアイドルグループ・BTSが「WORLD EXPO 2030 BUSAN KOREA CONCERT BTS <Yet To Come> in BUSAN」を開催し、その模様が全世界に配信されたことも記憶に新しい。2030年の万国博覧会開催を見据えながら、アジア有数の観光都市としての存在感を増す釜山の観光スポットや魅力を、商談会の模様とともに伝える。

釜山三大市場のにぎわい

富平市場（プピョンシジャン）＝写真上＝は釜山を代表する市場の一つ。韓国戦争（朝鮮戦争）以降、米軍から流れた缶詰が活発に取り引きされていたことから「カントン（缶）市場」とも呼ばれる。「無いものが無い」ともいわれる同市場では、水産物、果物、野菜、穀類から軽食、総菜まで、食に関連するあらゆるものが売られている。衣類や寝具、雑貨などを扱う店舗も多い。地元の雰囲気を感じながら、食べ歩きやショッピングをするのにもってこいのスポットだ。

隣接する国際市場も買い物やグルメを楽しめるエリアで、韓国の大ヒット映画「国際市場で逢いましょう」のロケ地巡りで訪問する人も多い。

富平市場、国際市場から歩いて数分、沿岸部に位置するチャガルチ市場では、新鮮な海産物が取り引きされ、港を眺めながら食事を取れる食堂街も整備されている。

これらの市場を含む「南浦洞（ナンポドン）」エリアには、韓国内外から多くの観光客が訪れる。

チャガルチ市場のほど近くに「BIFF（Busan International Film Festival：釜山国際映画祭）広場」があり、映画祭に参加した監督や俳優の手形が記念に路面に埋め込まれている。広場内には人気のホットク屋台があり、連日多くの人が長蛇の列をなしている

新鮮な海産物が並ぶチャガルチ市場

伝統の海水浴場に新名所

釜山最大の観光地でもある南浦洞（ナンポドン）から最寄りの海水浴場が松島（ソンド）ビーチ。地元住民に古くから愛される同ビーチを望むように、2017年6月、「松島ケーブルカー」が開業した。松島ビーチや釜山影島（ヨンド）、絶壁に並ぶ奇岩など周辺一帯の眺望が人気を呼び、釜山の新たな観光名所として人気が高まっている。南側乗場駅「松島スカイパーク」で下車した先にはトッポギなどの軽食店が軒を連ね、隣接する公園で地元グルメを片手につかの間のひと時を過ごす人も多い。同駅の屋上にある「スカイ・ハーバー展望所」からは、眼前に広がるオーシャンビューを堪能できる。

韓国の空の新名所

2020年に開業した「BUSAN X the SKY（釜山エックス・ザ・スカイ）」は、国内最大級の展望台として大きな注目を集めている。海雲台のビーチ沿いの「エルシティ・ランドマークタワー」に位置し、標高411・6㍍になる100階の展望フロアからは釜山の海、山のほか、海雲台エリアの市街地まで広範囲を一望できる。館内にはレストラン、カフェ、記念品ショップなどもあり、休憩やショッピングスポットとしても活用できる。

99階には日本でもおなじみのコーヒー店「スターバックス」がある。ここでは〝世界一高い所で飲むスターバックスコーヒー〟を、眼下に広がる絶景と共に味わえる

100階は足場が一部ガラス張りに

←100階に上がるエレベーター内の様子（QRコード）

海沿いの岸壁に広がる住宅、海の眺望

海を望むカフェ。建物の白と海の青が美しいコントラストを織りなす

映画「弁護人」や「悪いやつら」の舞台としても知られる白瀬（ヒンヨウル）文化村は、地元の芸術家と住民が協力して古い町並みを再整備した観光エリア。海沿いの岸壁という立地、白を中心に色鮮やかな建物が連続する住宅群、透き通るような青が特徴の海を眺めるロケーションから「韓国のサントリーニ」とも呼ばれ、多くの訪問者がカメラを片手に景色を楽しめる国内有数のフォトエリアとなっている。

美しい海景を心ゆくまで

海雲台海辺列車は、旧東海南部線の廃線を再活用して作られた

「海雲台（ヘウンデ）ブルーラインパーク海辺列車」は、2020年に開業した海岸沿いを走る列車。海雲台と青沙浦（チョンサポ）、松亭（ソンジョン）の海水浴場までの間を運行している。映画のスクリーンのように窓一面に海洋の絶景が映し出され、低速で走行する列車内で心地良い揺れを感じながら眼前の海景を楽しめる。

←列車内から眺める景色（QRコード）

市民の憩いの場で癒やされる

←2005年11月に開催されたAPEC首脳会議会議場として建設された「ヌリマルAPECハウス」内は、当時のままの姿で現在は一般公開されている

海雲台海水浴場から海に向かって右側に目を向けると、白い砂浜の先に「冬柏島（トンベクソム）」が位置している。もともとは島だったが、長い年月を経て陸地とつながった。一帯が公園となっており、園内を一周する散策路が造成され、春には道沿いのツバキが満開の花を咲かせるなど、市民の憩いの場としても親しまれている。

童話の世界への誘い

ロッテワールド・アドベンチャー釜山は今春、釜山シンボル「ローリー城」やオシリア観光団地に開業したテーマパーク。パークの言葉を話す木「トーキングツリー」のほか、全世代が楽しめるさまざまなアトラクションが用意されている。「童話の中の王国」のテーマのもと園内各所におとぎ話の世界観や雰囲気で彩られ、園内を歩くだけでも楽しい気持ちになれそうだ。

アジアの8国・地域が商談会に参加

冒頭のセレモニー

1日に行われたBtoB商談会には、日本のほか台湾、ベトナム、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポールの旅行業関係者が商談会に参加した。冒頭のセレモニーでは、釜山市と同市の観光関係者が誘客を呼び掛けたほか、来年3月に日本で同様のBtoB商談会を実施する予定であることが発表された。

釜山観光公社大阪事務所の藤原亜唯所長は「海や山の景色やグルメのほか、国際映画祭が開催されるなど映画の街としての側面もある。今年は中止になってしまったが『BOF（釜山ワンアジアフェスティバル）』でも多くの日本の方がいらっしゃる。旅行業関係者の皆さんはもちろん、より多くの日本の皆さんに『身近な観光都市・釜山』の魅力を知ってもらえたらうれしい」と話す。釜山観光に関する問い合わせ等は、同公社☎06（6949）0023、https://www.visitbusan.net/ja/index.do（同QRコード）。

商談会の様子